



見玉源太郎顕彰会2年目へ 29年度総会開催



編集・発行
見玉源太郎顕彰会
〒745-0874
山口県周南市公園区5854-41
周南文化協会 内
TEL. 0834-22-8190
印刷 (株) 精文社
山口県周南市若宮町1-55
TEL. 0834-21-1611

昨年6月9日に発足した見玉源太郎顕彰会（小川亮会長）は、いよいよ2年目に入りました。29年度総会を6月13日、周南市文化会館3階展示室で開催しました。新年度は見玉源太郎の命日7月24日に「藤園忌」を営むことや徳山大学、山口大学と連携した台湾との交流、ホームページの充実などを決めました。

総会には80人が出席。元徳山市長の小川会長が事業計画の藤園忌の内容や台湾との交流、インターネットを活用した情報発信、次世代への継承など2年目の活

動への意欲を語りました。来賓として木村健一郎市長は、住田英昭副市長とともに出席し、見玉源太郎顕彰会の活動を称えて「周南市としてもしっかりと取り組んでいく」と決意を述べました。

役員選任では徳山商工会議所会頭の宮本治郎さんが副会長、兼崎地橙孫顕彰会理事の藤井宜章さんが事務局次長、徳山商工会議所青年会会長の続木保友さん、周南青年会議所理事長の中川智加良さんが幹事に就任しました。

総会のあとは徳山大学教授・学長補佐の紙矢健治さん（中国近現代史専攻）を招いて設立1周年記念講演会を開催しました。会報「藤園」2号にも執筆された「台湾澎湖女婿の語る見玉源太郎子爵の面影」について台湾の映像を交えて紹介しました。

昨年度の会員は目標の5000人を達成、最終的に寄付金14人、団体会員33件、賛助会員6件・11人、個人会員503人の計39件・528人を数えました。

見玉の雅号にちなんで名付けた会報「藤園」、見玉の住まいがあった地名を生かしたニュースレター「本丁通信」の発行、設立記念式典、記念講演会の開催などを報告しました。



講演する紙矢健治さん

新年度の事業計画では、会報「藤園」を6月10日に発行、7月23日に「藤園忌」の茶会と邦楽演奏を周南市文化会館で、命日の24日は午前中見玉神社で命日祭、午後から菩提寺の興元寺で供養、そのあと見玉家の墓前で見玉の漢詩を献吟。7月から8月まで藤園忌にちなんだ俳句も募集しました。

※「藤園忌」の命日祭と供養、「藤園忌」を記念しての茶会と邦楽演奏、俳句の募集については別頁で詳細を掲載していますのでご覧ください。

なお、顕彰会会員で徳山医師会病院顧問の中村和行さんが、来年度を目指してがん哲学外来を開設する準備を進めています。名付けて「見玉源太郎記念がん哲学外来」。詳しくは会報「藤園」3号で紹介されます。

平成29年度 事業計画

● 6月10日	会報「藤園」2号	1,500部
● 6月13日	総会&講演会	周南市文化会館
● 7月23日	「藤園忌」茶会&演奏会	周南市文化会館
● 7月24日	「藤園忌」命日祭&供養	児玉神社と興元寺
● 7月~8月	「藤園忌」俳句募集	10月審査発表
● 10月・3月	「本丁通信」2・3号	1,500部
● 年間	次世代の参画と継承	インターネットの活用
● 年間	台湾との交流事業	徳山大学・山口大学と連携
● 年間	記念館の検討	将来への構想
● 3月10日	児玉神社例祭参加	

平成28年度 事業報告

● 6月9日	設立総会	周南市文化会館	出席 22人
● 10月1日	会報「藤園」創刊	A4判48頁	2,000部
● 10月8日	設立記念式典	遠石会館	出席152人
● 12月10日	設立記念講演会	周南市文化会館	出席132人
● 3月25日	ニュースレター「本丁通信」創刊	A4判8頁	1,500部
● 随時	会員加入	寄付金	14人
	会員数	39件・528人	団体会員 33件
			賛助会員 6件・11人
			個人会員 503人
● 開設2月	ホームページ		

平成29年度 収支予算

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
繰 越 金	4,179,658	0	
会 費	1,700,000	1,681,000	個人会費 団体会費 賛助会費
寄 付 金	2,500,000	5,360,000	寄付金
雑 収 入	100,000	1,084,012	会報「藤園」販売 講演会聴講料 利息
合 計	8,479,658	8,125,012	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
会 議 費	50,000	14,070	会場費等
通 信 費	200,000	184,444	切手・葉書 郵送代
消 耗 品 費	150,000	144,417	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,000,000	1,144,800	「藤園」「本丁通信」、封筒
備品購入費	50,000	242,132	顕彰会印鑑・パソコン
渉 外 費	50,000	0	慶弔費・旅費等
宣伝広告費	300,000	129,600	ホームページ
事 業 費	500,000	1,862,231	「藤園忌」催事、講演会
事務局費	250,000	210,950	借上費・賃金・事務用品
手 数 料	20,000	12,710	郵便振替手数料
予 備 費	5,909,658	0	
合 計	8,479,658	3,945,354	

平成28年度 収支決算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
会 費	2,000,000	1,681,000	個人会費 1,021,000 団体会費 420,000 賛助会費 240,000
寄 付 金	2,000,000	5,360,000	寄付金
雑 収 入	0	1,084,012	記念式典会費 1,064,000 会報「藤園」販売 12,000 講演会聴講料 8,000 利息 12
合 計	4,000,000	8,125,012	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
会 議 費	50,000	14,070	会場費等
通 信 費	340,000	184,444	切手・葉書、郵送代
消 耗 品 費	100,000	144,417	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,200,000	1,144,800	「藤園」「本丁通信」、封筒、会員募集チラシ
備品購入費	130,000	242,132	顕彰会印鑑・パソコン・書籍・表札
渉 外 費	200,000	0	慶弔費・旅費等
借 上 費	20,000	0	光熱費
宣伝広告費	0	129,600	ホームページ
事 業 費	0	1,862,231	記念式典 1,747,011 記念講演会 115,220
事務局費	160,000	210,950	借上費・賃金・事務用品
手 数 料	0	12,710	郵便振替手数料
予 備 費	1,800,000	0	
合 計	4,000,000	3,945,354	

(収入) 8,125,012 - (支出) 3,945,354 = (残高) 4,179,658

初めての「藤園忌」 児玉神社と興元寺へ

明治の軍人、政治家として活躍した周南市出身の児玉源太郎をしのぶ「藤園忌」。児玉源太郎顕彰会では命日の7月24日を児玉の雅号にちなんで「藤園忌」と定め、

児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で供養を行いました。顕彰会の役員ら25人が参列し、児玉源太郎の偉業に思いを馳せながら次世代への継承を、とその気持ちを新たにしました。



児玉神社での命日祭

代への継承を、とその気持ちを新たにしました。

児玉神社では拜殿で黒神宮司の祝詞が奏上され、小川亮会長らが玉串を捧げました。興元寺では金子住職ら一門の僧侶9人が本堂で読経をあげて参列者が焼香しました。このあと近くの児玉家墓地で児玉源太郎の遺髪塔の前に森谷京岳さんと柴田優岳さんが児玉の漢詩を献吟しました。

小川会長は「児玉大将の111年目の命日に藤園忌を定めることができて感無量。ふるさとに生きる者としてその偉業を称え、子どもたちに伝える使命がある」と話しました。

児玉源太郎の命日については23日と24日の二つの説がありますが、児玉源太郎顕彰会では児玉家が24日を命日としていること、墓石に24日薨去と彫り込まれていること、菩提寺が24日で供養を執り行っていることなどから24日を「藤園忌」と決めました。



興元寺で供養

「藤園忌」茶会と邦楽演奏 盛大に開催

児玉源太郎顕彰会が2年目で次につないで飛躍できるかどうか、大切な年です。理事の山下武右さん（山下内科医院院長）から「藤園忌」の提案があり、小川亮会長らと相談して児玉神社と興元寺へのお参りのほか、記念のお茶会や俳句募集など幅広く取り組むことになりました。

箏や尺八の演奏を聴きながらお茶を戴く茶会については顕彰会の事務局を置く周南文化協会の仲間呼びかけました。茶道連盟会長



児玉源太郎遺髪塔前で献吟

の北出喜久栄さんも、邦楽連盟会長の澄田悦子さんも快諾、早速実現しました。

茶会は命日前日の23日、周南市文化会館で開催しました。和室を裏千家淡交会が、隣の展示室を表千家周栄会が担当、展示室では邦楽連盟理事らが箏と尺八の演奏で華を添えてくれました。400人が参加、徳山大学留学生や徳山看護学校学生ら若者の姿も大変さわやかでした。



児玉源太郎顕彰会は7月24日の「藤園忌」にちなんだ俳句を7月から8月にかけて募集しました。

「藤園」は児玉源太郎が書などに使っていた雅号です。

器量の大きな軍人、政治家として日本の近代化を推進した明治の偉人、児玉源太郎。ふるさとにおいては私財を投じて私設図書館「児玉文庫」を作りました。文庫は明治36年から戦災で焼失する昭和20年まで42年間にわたり、郷土の教育文化に大きく貢献しました。現在の周南市立中央図書館の前身とも言えます。

大正11年創建された児玉神社や台湾から移植された記念樹「タイワンゴヨウ」の松、菩提寺の興元寺、生家跡の産湯の井戸、2年前には整備された生誕の地など、市内には児玉源太郎をしのぶ史跡があります。

募集した俳句は雑誌で「児玉源太郎に関すること」。1人3句ま



「藤園忌」俳句募集 入賞作品決まる

で。応募は125人、作品は360句でした。これを無記名清記のうえ、選者の久行保徳さん（草炎主宰）に依頼し、特選3点、入選10点、佳作17点の計30作品を決定しました。

入賞作品は次の通りです。

◇児玉源太郎顕彰会 「藤園忌」俳句入賞作品

特選

藤園忌うぶ湯の井戸の錆び重し

周南市 村木 澄江

祭神は児玉大将小鳥来る

周南市 門田柚子木

産土の井覗く日よ児玉の忌

周南市 山根 志づ

入選

風若葉児玉文庫の書を照らす

下関市 富永 玲子

ふらここの子らを見やりて児玉像

周南市 木村 武馬

文月に賢人偲ぶ藤園忌

宇部市 中村 和行

あきつ飛ぶ児玉文庫に通いし日

周南市 村上 礼子

床の間に露と大書の藤園忌

周南市 河村加南子

藤園忌緑風渡る台湾松

山口市 吉次 薫

藤園忌遠くて近き明治なり

周南市 赤坂 満子

藤園公祀る神社や蟻の列

周南市 木村しづを

こんこんと産湯井戸湧く藤園忌

光市 上野 昭子

秋蟬の一声高し興元寺

下松市 中田 裕子

佳作

天辺に大将在す松ぼくり

周南市 谷村 道子

真青なる海に波照る藤園忌

山口市 重村 太次

藤園忌亜細亜は同じ夏の日

周南市 藤兼 雅幸

墨の香の部屋に満ちゆく藤園忌

下松市 河村 正浩

ふる里に源太郎あり雲の峰

周南市 林 しずか

蒼天に明けの明星藤園忌

周南市 山根 瀧子

走り根太き台湾五葉雲の峰

防府市 篠原 久子

天辺の椅子は幻雲の峰

周南市 石川 芳己

台湾の信は今なほ百日紅

光市 藤井 安廣

藤園忌産湯の井戸の水枯れず

周南市 柳 満子

藤園の眠りし寺や蟬しぐれ

下松市 石丸 靖男

軍服の遺影ひとさわ夏座敷

周南市 町田 敏子

追憶の児玉文庫や春霞

下松市 矢野萬里子

藤園忌老いて祭の血が騒ぐ

大島郡 村田 光子

軍服の貌の親しき星涼し

周南市 山本 美保

白雲の岐山の松や児玉の忌

周南市 片山 幸江

夏雲に勢い迫るゴヨウマツ

岩国市 西崎 恒雄

顕彰会の役員も俳句に挑戦してみました。審査対象外として紹介します。

・菩提寺の魂蘇る藤園忌
・藤園忌五葉の松風爽やかに

(小川亮会長)

・殉難の七士も弔う藤園忌
・お点前に箏の音涼し藤園忌

(山下武右理事)

・風青し昔語りすタイワンゴヨウ

(花田佳子幹事)

・瑠璃碗に薄茶際立つ藤園忌

(西崎博史事務局長)

表彰式 & 記念講演

・10月22日(日)午前10時から正午まで周南市文化会館地階展示室にて。

・選者の久行保徳さんが「詩歌における愛の表現」と題して講演します。

・入場無料。多数のご参加をお待ちしています

茶道を通じて交流の輪を

「藤園忌」茶会を担当して

茶道連盟会長 北出喜久栄さん

児玉源太郎顕彰会が初めて企画した「藤園忌茶会」が7月23日、周南市文化会館で開催されました。周南文化協会の邦楽連盟とともに茶道連盟として茶会を担当しました。

3階和室で児玉源太郎顕彰会の西崎博史事務局長(周南文化協会会長)よりご挨拶戴き、続いて裏千家淡交会が薄茶席でおもてなしました。

床には日露戦争を共に戦った乃木希典の軸を掛け、藤園忌にならんで古丹波経筒花入れに数珠玉、木槿、黒酸漿を活けました。銀緑

藤蒔絵香合を飾って水指は青磁貝耳香炉型としました。銘「福寿海」の茶碗で海を越えて活躍された児玉源太郎に思いを馳せながら一碗を差し上げました。

茶約は村田園先生の発案で、児玉源太郎顕彰会の小川亮会長に依頼して「一」という銘を戴きました。一は万事の始まりで一番！顕彰会発足と第1回藤園忌茶会に最高の銘。感謝と感激一入でした。

隣の展示室では表千家周栄会の立礼席。邦楽連盟の箏と尺八の豊かで美しい調べの中、美味しくお茶を戴かれたことと思います。軸

は香林筆「雲悠々水潺々」、マルチガラスの水指、ハイビスカス絵の茶器、銘「さざ波」の萩茶碗、「夏木立」の茶約等々季節感溢れるお席でした。

児玉源太郎と縁の深い台湾から

の留学生と徳山看護学校の生徒、そして大勢の市民のご参加に心弾ませた一日でした。今後も茶道を通して心と心が通い合う交流の輪を広げていきたいと思えます。



お点前と邦楽のハーモニー

「藤園忌」茶会で演奏して

邦楽連盟会長 澄田悦子さん

児玉源太郎顕彰会主催の「藤園忌」のお茶会が開催されました。

顕彰会から周南文化協会を通じて「お茶会と邦楽とのコラボレーシ

ョンの中で児玉源太郎をしのぶ藤園忌を行いたいので協力してほしい」とのお話があり、邦楽連盟理事数名が参加させて戴きました。



お茶会に参加される皆様が邦楽の調べを耳に、児玉源太郎をしのびながら日本の伝統的なお茶を静かにゆつたりと味わうことが出来るように演奏の曲目や方法を事前に話し合い、お茶会に臨みました。穏やかで落ち着いたお点前とハーモニの温かい雰囲気の中でお茶会は進みました。箏を演奏した女性らは「4時間にわたって箏を演奏したのは初めて。とても気持ちよく出来ました」「演奏する曲がマッチして参加された方にもコラボレーションを楽しんでもらえたのではないのでしょうか」と感想を話していました。

お茶会終了後、邦楽に興味をもたれた徳山大学の留学生さんと突然のワークショップを開くことになりました。ベトナムの留学生さんが出演者の指導を受けながら一生懸命箏に挑戦し、何度も「さくら」を練習して弾くことが出来るようになり大喜びしていました。尺八とフルートで「さくら」を合奏した台湾の学生さんの真剣な表情。指導した出演者は「日本の楽譜の記号をすぐ理解し、指

お茶と邦楽の世界に魅了 留学生とともに参加して

徳山大学教授 紙矢健治さん

導に素直に耳を傾ける態度は素晴らしい」「(箏の弾き方を教えてくださーい)」という学生さんに爪のつけ方、弾き方を教えました。意欲的で気持ち良かったです」と口々に。素敵な学生さんに出会えたワークショップとなりました。「藤園忌」のお茶会に出演させて戴き、幸せな尊い時の流れに感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

児玉源太郎顕彰会から「藤園忌」茶会&演奏会に招かれました。留学生に日本の伝統文化を味わってほしいということで、ラオス、ベトナム、韓国、台湾4カ国の留学生と一緒に参加させていただきました。

表千家、裏千家の茶道を一度に体験できるとあって興味津々の若者たち。それぞれのお茶の作法、和菓子の奥深さを理解してくれて大変意義のあるひとときとなりました。

お茶とともに学生たちは箏と尺八の演奏にも心を引かれたようです。偶然にも周南地区吹奏楽連盟主催のサマーコンサートが同じ周南市文化会館で開催されていました。台湾の留学生のリンティンハ君が徳山大学吹奏楽部のフルート奏者として出演したあとでした。お茶会の会場で箏と尺八の先生方と一緒に「さくら」を演奏、ベトナム、ラオスの留学生も飛び入りで箏の演奏に挑戦。国際色豊かな邦楽の演奏に会場の皆さんも



大いに盛り上がり、少し内気な韓国の留学生も一緒に演奏を楽しんでくれました。

児玉源太郎は台湾や満州での経験が彼をここまで大きくしたと考えています。アジア出身の留学生たちに藤園忌茶会を通じて地元の人々が大切にしていく児玉の生きた時代を伝えられたことを喜ばしく思いました。

次世代に児玉の心、そしてそれを大切にするこの土地の人々の思いをこれからも留学生、日本の学生に伝えたいと強く思います。

会員からの便り

東京

* 高田 美鈴さん

杉山茂丸の別荘跡へ

児玉源太郎と親交のあった杉山茂丸の別荘跡が私の住まいの近くにあるということで訪ねてみました。

「其日庵」と名付けられた別荘があった現在地は墨田区堤通2丁目です。大正2年に杉山茂丸は日本活動写真(日活)向島撮影所に売却し、今は桜堤中学校になっています。

写真は桜堤中学校の前の道路から撮ったものです。近くには隅田川神社や木母寺があり、当時は別



桜堤中学校前からのスカイツリー

荘地にふさわしい景勝地だった場所です。今は遠くにスカイツリーが望め、時代の変遷を痛感します。

日露戦争凱旋祝いの品として杉山は児玉に大きな茶釜を贈りました。その茶釜の記念碑が築地本願寺にあるようです。ふたりの交友がいかに深かったかが理解できません。杉山は自著「児玉源太郎」の中で児玉大将の墓に詣でてとして短歌を披露しています。

なき魂を弔う野辺にしぐれして
聞くも寂しき入相の鐘
※入相の鐘は晩鐘のことです。

東京

* 福田 輝美さん

徒然なるままに

ここ半年の交遊録です。

時折居酒屋で飲み交わしている友人が初対面の男を連れてきました。型通りの自己紹介で「私は徳山の生まれで」と言うと、いきなり返ってきた言葉が「児玉源太郎さん」でした。大変詳しく「自分も小柄なところがそっくりさんなんだ」と冗談を交えて「天辺の椅子」(古川薫著)を読むように勧められました。

防長倶楽部の総会で源太郎さん

の曾孫にあたられる方と面識ができました。近くの珈琲店で4時間も話を聞きました。日露戦争前にも話があったという話は初耳でした。

海地ケーブルの敷設に大変な苦勞があったという話は初耳でした。会報「藤園」2号の藤井英雄さんの寄稿「みなさまと台湾を訪ねてみたいもんです」の写しを葉山のOさんに送りました。「それにしても藤井さんの一言一句に、わが意を得たり、の思いであります。後輩の一人として八田與一先輩に報告したいと思います」との返書を受け取りました。10月中旬一緒に江ノ島に参詣することを楽しみにしています。

山口・光

* 紙矢 健治さん

台湾への旅

この9月17日から21日まで所用があつて台湾・高雄の自宅に戻ってきました。その際、児玉源太郎顕彰会の会報「藤園」2号を関連する機関や研究者にお渡しすることが出来ました。

また、サマンサジャパンの小野英輔会長(同顕彰会副会長)の熱意で出版された「児玉源太郎 日本と台湾を愛した武士」(黄文雄

監修)、日刊新周南の児玉源太郎顕彰会総会記事も併せて贈呈しました。

台湾政府の文化部(文化省)に勤める旧友、朱俊徳氏が文化資産局文化資産保存研究中心副主任になっていて過去400年ほどの歴史における文化財の保存と復元を急ピッチで進めています。今後は児玉源太郎の歴史をたどる有意義な交流も出来ると期待しています。

「藤園」2号で徳山海陸運送の藤井英雄社長(同顕彰会副会長)が「台湾に行きたい」と書いておられるのを拝見して、来年夏は徳山大学の海外研修と合わせて児玉源太郎顕彰会の台湾への旅が実現出来るといいなと楽しみにしています。

訃報

石田 獎さん 逝去

児玉源太郎顕彰会理事の石田獎(いしだ・すすむ)さんが10月2日逝去されました。90歳。

明治30年創業、周南市遠石の吉田屋醤油代表取締役会長。陸軍士官学校卒業生らで組織した偕行社の地元世話人として活躍されました。昨年6月に児玉源太郎顕彰会発足とともに理事に就任、運営について大変お世話になりました。ご冥福をお祈りします。

編集室より

「児玉文庫メモリアル」実現へ

中島 進

昨年の顕彰会発足を機に、児玉源太郎が郷里徳山に私費を投じて「児玉文庫」を開設したことが改めて認識されました。当時は画期的なことでした。

この9月議会で、顕彰会会員でもある米沢痴達周南市議会議員が周南市立中央図書館に「児玉文庫メモリアル」と愛称を付けては、と一般質問で取り上げました。

対して、中馬好行周南市教育長は「顕彰会も発足、機運も高まっている。前向きに検討したい」と顕彰会にとって嬉しい回答をしてくれました。

実現に向けて大きな一歩となることでしょう。日常的に児玉源太郎の名前を思い出す絶好の場所でもあります。顕彰会の声をさらに大きくしたいものです。

(新周南新聞社代表取締役社長)

新京児玉公園の情報を

有田 順一

本誌第1号で児玉源太郎にかか

る実物資料の重要性について書かせていただきました。今回は聞き取り調査です。今知りたいのは、新京にあった児玉公園のことです。

新京は「満州国」の首都があったところで、かつては日本人も多く住んでいました。そこに児玉公園があり、入口に児玉源太郎騎馬像が建っていました。当時、この公園をよく利用された方がいらしたらご連絡いただければ幸いです。公園の歴史、概要、騎馬像、そしてあなたの思い出など。遠い記憶ですが今ならまだ間に合うと思います。

(周南市美術館館長)

一寸の光陰

川上 浩史

自宅の本棚には、学生時代から今に至るまで「購入しただけ」の本が増え続けていますが、児玉源太郎に関して調べる機会が増え、全く違う目的で購入していた本が思わず役に立つことが何度かありました。

ある種の嬉しさも感じますが、あれこれと本を読む時間が欲しいと思うたび、児玉源太郎といえども潤沢に時間に恵まれていたのではない、自ら時間を生み出す努力が足りない、と自省の念も起きます。

(新南陽郷土史会事務局長)

源太郎の手紙

松本久美子

先般、ある方から児玉源太郎ゆかりの資料をお預かりしました。それは、政党政治家の栗原亮一に宛てた児玉源太郎の手紙です。

短い手紙で、用件のみしか書かれていないため、二人の関係やどういう状況のもとで書かれたのか、今の段階では詳細がよくわかりません。現在、いろいろと調べている最中です。この手紙については、いづれ会報「藤園」で紹介できればと思っています。

(周南市美術館学芸課長)

児玉で繋がる

花田 佳子

この日は東京在住の方からのご質問でした。「児玉神社にある後藤新平揮毫の石碑『徳足以懐遠』の解釈は？」というものでした。児玉源太郎が大層徳のある人物であった事を言わんとしたもので、出典は中国の古典『春秋左氏伝』が考えられる事を伝えました。

なお、同書は児玉が学んだ興譲館等藩校で、教科書としても使われていました。後藤は水沢の藩校立生館で経史や詩文を修めたことがあり、児玉を偲びこの一文が頭を過ぎったのでしよう。質問を寄せられた方が「仲間

児玉を勉強している」と仰っていました。うれしくなりました。「児玉で繋がっている」と。

(元周南市立中央図書館館長)

おもてなしの心

西崎 博史

児玉源太郎の命日を7月24日と定めて顕彰会として初めての「藤園忌」を企画しました。何事も初めて尽くしは難しいです。児玉神社で命日祭、菩提寺の興元寺で供養をしました。僧侶9人による読経はまさに異空間でした。

前日23日は周南文化協会の茶道連盟、邦楽連盟の協力で「藤園忌」茶会。周南市文化会館3階の和室と展示室で裏千家と表千家のお茶を美味しく戴きました。筆と尺八の音色を耳に何と心地好い時間なのでしょう。私も初めて着物姿で400人の皆さんをお迎えしました。お茶におもてなしの心を学びました。すべての方々に感謝します。

(周南文化協会会長)

あとがき

このニュースレターの「本丁通信」は、児玉源太郎の生家があった地名「本丁(ほんちょう)」にちなんで付けました。